

# 西俊輔の「毎日楽しく」

Vo1.80 2012年4月号

「人の心は庭のようなものです。それは知的に耕されることもあれば、野放しにされることもあります。そこからは、どちらの場合にも必ず何かが生えてきます。もしあなたが自分の庭に、美しい草花の種を蒔かなかつたら、そこにはやがて雑草の種が無数に舞い落ち、雑草のみが生い茂ることになります。」

これは今から100年以上前にイギリスの思想家（あるいは哲学者）のジェームズ・アレンという人によって書かれた「原因と結果の法則」という本に書かれていることです。アレンは、人そのもの、あるいはその人格というものには環境によって左右されたり、作られたりするものではなく、実はまったくその逆で、人の思いがその人の環境を作っているということをこの本で言っています。上記の文章は次のように続きます。

「すぐれた園芸家は、庭を耕し、雑草を取り除き、美しい草花の種を蒔き、それを育みつづけます。同様に、私たちも、もしすばらしい人生を生きたいのなら、自分の心の庭を掘り起し、そこから不純な誤った思いを一掃し、そのあとに清らかな正しい思いを植えつけ、それを育みつづけなくてはなりません。」

私たちは自分自身の思いによって、自分をすばらしい人間に創りあげることもできれば、破壊してしまうこともできるとアレンは言います。正しい思いを選んでそれをめぐらしつづければ、気高い、崇高な人間へ上昇することができる一方で、誤った思いを選んでめぐらしつづけることで獣のような人間へと落下することもできると言っています。トウモロコシの種からトウモロコシ以外のものが決して育たないように、「心の中に蒔かれた思いという種のすべてが、それ自身と同種のみを生み出します。それは遅かれ早かれ、行いとして花開き、やがては環境という実を結ぶことになります。良い思いは良い実を結び、悪い思いは悪い実を結びます。」

りっぱな人格を持った崇高な人間になることにあこがれはあっても、それのみではなかなか本気で取り組もうと思えないものですが（少なくとも私自身は）、それがすなわち、自分の環境まで変えてしまうとなると、ちょっと考えてしまいます。

